

私は、大阪医科薬科大学一般・消化器外科学教室の松尾謙太郎と申します。2021年2月より米国ニューヨーク州ニューヨーク市にありませぬDepartment of Surgery, Section of Colon & Rectal Surgery, Weill Cornell Medicine, New York Presbyterian Hospitalで留学させていただいております。この度、留学レポートを書く貴重な機会をいただきましたので、ご報告させていただきます。

まずはじめに、この留学が実現するにあたって最も苦労したことといえば、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行による様々な弊害でした。本来であれば、2020年より留学開始予定でありましたが、アメリカへの渡航禁止やVISAの発給停止、さらにはニューヨーク市自体がロックダウンで先方より連絡が途絶えたりと混乱が後を絶たず、先が見えない不安の毎日でした。希望の光が見え始めたのは、2020年12月頃でちょうどワクチン接種が米国で開始されたころでようやく先方より具体的な連絡があり2021年2月より受け入れが可能となりました。このよう

な世界的混乱の中、運よく留学できたことを非常にうれしく思いますし、許可していただきました内山和久教授はじめ医局の皆様には本当に感謝申し上げます。

しかし、私が渡米した頃はワクチンが開始していたとはいえ、ニューヨークでは新型コロナ感染者が増加傾向であり感染対策はかなり厳重で、普段マスクを嫌うアメリカ人が全員マスクしている光景を目の当たりにし、いかに感染状況がひどかったかが窺えました。ただ、個人としては新型コロナ感染も非常に警戒していましたが、それよりも一番警戒していましたが治安の悪化です。渡米してから、連日ニュースでアジア人が暴行を受けたなどが報道されていました。さらには、銃撃事件なども増加傾向にあり、ニューヨーク領事館より地下鉄を乗るときの注意やアジア人とわからないようにサングラスや帽子を身につけて自己防衛をお願いしますなどの具体的なメールが来るのをみて、本当に治安が悪化していることを実感し、恐怖を感じていたのを今でも覚えています。

現在、渡米してから5か月が過ぎましたが状況は一変しました。ワクチンの普及に伴い、感染者数が減少傾向であることから非常事態宣言も解除され、マスク着用義務もなくなり街でマスクをしている人をあまり見かけなくなりましたし、飲食店やバーでのパーティーも見かけるようになり少しずつ活気を取り戻している印象です。観光客なども隔離なしで受け入れが開始され、観光地の人数もかなり増加してきていますのでよいよ元のNYに戻りつつあるのだなと実感している毎日です。



Dr Milsom(右)と浦川先生(左)よりシャンパンで歓迎していただきました。(自宅前の歩道にて)

研究室より

私の所属するDepartment of Surgery, Section of Colon & Rectal Surgery, Weill Cornell Medicine, New York Presbyterian Hospitalは、ニューヨークのUpper East Sideという地域の68 St沿いに位置しており、周囲にはMemorial Sloan Kettering Cancer Centerやロックフェラー大学など、世界的に有名な施設があるような地域です。研究室は、Minimally Invasive New Technology (MINT)という低侵襲手術の開発を目的とした研究組織であり、医師と多職種のstaffと意見や実際の臨床経験にもとづいたアイデアを共有し、患者への既存の治療戦略に対してより低侵襲な治療法や器具などを考え、そこで考え出したものをブタの腸管を使ったヒトの解剖に近いex vivo colonモデルを用いて実際に行いデータを蓄積し、従来の治療法と比較しいかに臨床応用できるかどうかの有効性、安全性などを評価しています。常に患者への負担を減らすためにはどういうものかいいか

と議論する姿勢に、つよく感銘を受けていますし自分の気持ちも引き締まる毎日です。

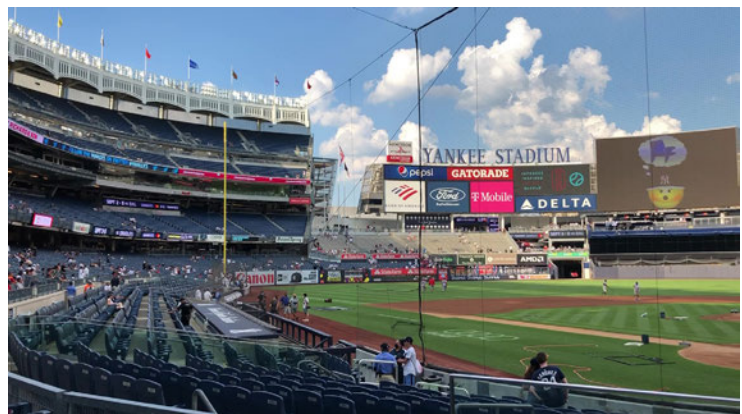
最後に

新型コロナウイルスの影響かとは思いますが、率直な意見としましては留学することがいかに大変なものかを痛感しました。留学するまで、留学してからの研究生活、大部分が苦勞の連続でした。しかし、そんな中でも日本では経験できない異文化に触れたり、世界の友人ができたりと貴重な体験ができることも留学の良さではないかと感じております。

このような世界的混乱の中、留学の機会を与えていただき、植木實理事長、佐野浩一学長、内山和久教授、奥田準二特務教授、医局の先生方、および関係各位の皆様には心より感謝申し上げます。また、この留学にあたりゴールドマン・サックス・ジャパンより奨学金を支援していただいたことを感謝いたします。



活気を取り戻しつつあるタイムズ・スクエア



規制が解除されfull openとなったヤンキース・スタジアム(試合前)